

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100628		
法人名	有限会社 ひばり		
事業所名	グループホーム ひばり		
所在地	熊本県熊本市南高江1丁目3番46号		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団		
所在地	熊本市中央区保田窪1-10-38		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に喜ばれ、明るく快適で安全なホーム作りに努力している。外部講師を招いて研修会を開き、介護の在り方、接し方など家族と職員と一緒に学べるように、家族へも案内を出し、利用者への一貫したケアの提供に努めている。阿蘇から取り寄せた米やひばりの菜園を利用した家庭的な食事作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、幹線道路がすぐ近くにあるにも拘わらず、畑と人家に囲まれた静かな環境の中にあります。利用者が自ら庭に布団を干したり、病院から帰ってきた利用者にみんなから「良かったね」と声がかかったり、職員利用者共に、同じ食事を賑やかに食べる風景等が見られ、まさにホームを感じることができる事業所です。これは、管理者の「帰宅願望の方が入所1年半もするといなくなる」という言葉からも本事業が利用者にとってホームになっていることが伺えます。多様な経済状態・家庭環境の利用者が入所していますが、若々しく小奇麗にされている利用者が多いのが印象的です。利用者の言われた「この職員さんは優しくてね、幸せ」、職員の皆さんの利用者への優しい対応、この関係が維持していく取り組みを、今後も管理者・職員に期待する事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	館内の数か所に理念を掲示し、毎日の申送り時の唱和により意識付けを確認している。	館内の掲示とともに、月1回実施される職員会議においても、理念の確認を行い、管理者・職員とともに、理念の共有化に努めている。	開設から5年目に向かい、管理者・職員とともに、現状を振り返り、より自分たちのもの感じる理念を作り上げる取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や近所のホームの行事にも出かけ、レクリエーションに参加している。また、年2回の日舞の訪問はなじみの子供達の舞踊を楽しみにされ、地域と交流を図っている。	近所の方が、気軽に血圧を計りに立ち寄られる関係が築けている。時には、野菜のおすそ分けもある。地域の保育園児が年2回訪れ、利用者の楽しみとなっている。また、保育園園長が来訪したり、利用者が保育園に出向くなどの交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看板を近隣に数か所設置して、ホームの周知を図り、オープンにすることで、認知症を理解してもらえるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、包括支援センター職員、家族の方々が参加し、2カ月に1回開催している。日々の活動報告や、意見交換を行いサービスの改善に生かしている。	委員からの感染症対策などの意見に対応して、ケア向上の取り組みが行われている。議事録は誰でも閲覧できるよう玄関に置かれている。評価を基に作成された目標達成計画の進捗状況の報告はまだ十分になされているとはいえない。	評価を基に作成される目標達成計画が達成出来るよう、本会議を、モニタリングの場として活用することを、期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から問い合わせや課題などあれば、出向いたり電話などで連絡を取り合っている。また、市役所相談員の月1回の来所により、ホームの現状についても理解を深めている。	地域包括支援センターとは、地域密着ケアについて連絡を取り合っている。行政担当者とは、介護保険改正に伴う情報交換がおこなわれている。市役所相談員が利用者と面接した結果について家族と話し合い検討する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。夏場などは、風通しが良いように、網戸にしている。なじみの家のように住みやすい環境整備に努めている。	どこの窓も開錠できる状態になっている。離ホームする利用者には、目配り・見守り・寄り添うケアがされている。身体拘束に関する研修がされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通し、職員の理解を深めている。職員同士が常にお互いの行動を観察しながら、より良いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会を通して、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者より利用者や家族の疑問や不安を伺いながら十分に説明を行い、納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時には、心身の状況など詳しく伝え、意見や希望を聞いている。また、運営推進会議でも意見を聞く機会を設けている。	介護度が上がった利用者への歩行訓練・咀嚼訓練を要望する家族の意見に対してそれぞれの訓練を行い、その記録を家族に伝える取り組みが行われている。玄関に意見箱が設置されているが、まだ利用はされていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員から意見を聞く機会を設けており、研修の場で意見交換を行い、改善に向け取り組んでいる。	職員会議で掃除の仕方やケアの在り方について意見が出され、話し合い、日々のより良いケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から出た意見を基に業務改善を行うなど、職場環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師による研修の機会を設け、スキルアップに努めている。また法人内外の研修の参加も積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は地域包括支援センターによる家族会議や勉強会に参加し、日頃の介護相談や悩み等について意見交換し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談を行い、十分に話しを聴き、現状を把握すうように努めている。入所中も密にコミュニケーションを取り合い本人の安心の確保に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、十分な話し合いを行い、ご家族や利用者が必要としている支援を見極め必要時には、他のサービスの利用の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、食事の準備や洗濯たみ、掃除等出来る事は積極的に参加して貰えるよう声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の健康状況や日々の生活状況は面会時や電話で伝え、受診・外出・外食なども共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時や、家族宿泊の際には、食事の提供や貸布団業者を利用して、一緒に過ごして頂けるように環境を整えている。また、入所前の近所の方や、なじみの人達の面会も度々ある為、関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が、気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりがされている。保育園の職員との馴染みの関係が継続できる支援が行われている。利用者が希望する場合は、いきつけの美容院を利用する支援が実施される。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を見極め、会話がかみ合わなかったりトラブルが起こりそうな時は、職員が間に入り共に支えあったりできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も訪問されたり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から生活歴や意向を聞きとって記録している。利用者が今どのように感じているか理解し、あるいは、部屋でゆっくり聞いたり散歩しながら意向の把握に努めている。	利用者の表情や話しの内容等で思いや意向をくみ取るケアが行われている。また家族から、利用者の生活歴や趣味や興味のある事を聞きとる取り組みが行われ、琴が趣味であった利用者が、琴を弾く機会をもつ支援が行われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や本人から情報を得ている。また記録により情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りや記録により職員全員が個々の心身状態や有する力等を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申送りや職員会議でケアのあり方を話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映している。ご家族、本人と話し合いモニタリングを行い介護計画を作成している。	職員会議において、利用者への気づき、意見を出し、職員全体で話し合い、利用者の思いや課題を反映できるよう介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申送りや職員からの気づきや情報を共有しながら、日々の変化に気づけるよう努力し、介護計画に役に立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の日々の変化する状況に応じて、柔軟に対応している。ご家族も一緒になって支援して貰えるよう、外泊や外食されたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のホームの行事やレクリエーションに参加したり、花見の季節には全員で出かけている。年2回の日舞訪問にはなじみの子供達の舞踊姿を楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行を基本に希望に沿う支援をしている。必要時には職員も付き添う。緊急時や往診可能な協力医のもと適切な医療を受けられるよう支援している。	家族同伴によるかかりつけ医への受診の場合は家族に日常の状況を話し、看護記録を持参していただく支援が行われている。家族が同伴できない場合は受診支援が行われている。訪問歯科が定期的実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が1名常勤で勤務し受診時の付き添いや薬の管理を行なっている。入浴時など異常があったり、心身の変化はすぐに看護師へ連絡、相談があり、家族との医療的な窓口になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師より、サマリーを入院先へ持っていきようとしている。入院中は、何度か見舞いや入院先の関係者と話しを行い、退院後のGHでの生活環境で良いか話し合いを行なっている。退院時は、病院よりサマリーを頂くようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「医療連携加算に関する指針」を説明し、重度化した際の対応について、利用者や家族と話し合いを行い、希望に沿う取り組みをしている。かかりつけ医の協力のもと緊急時や往診体制を整えている。	終末期において、医療の必要性が少ない利用者の場合は、医師・家族と共に段階的に話し合いながら看取りが行われている。重度化に際しての、事業所の対応は、入所時に説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署に来て頂き、利用者の急変や事故発生時に備えて訓練している。蘇生や初期消火、通報訓練など職員全員で実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難訓練は職員1人で実践し、利用者の避難方法を学んでいる。また、近隣の連絡先を掲示して、協力体制を築いている。	基本、全員参加で、避難訓練が実施されている。災害時に、近所の方に協力要請できるよう、電話番号を教えて頂く取り組みが行われている。どの出入り口からも、車いすを利用して避難できるつくりになっている。	今後の取組として、協力を頂いている近所の方も参加していただく避難訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの考えを尊重し、相手を思う気持ちを忘れずに注意を払いその人らしい生活の支援に努めている。	トイレへの誘導にはプライドを損なわないよう言葉かけに気をつけて誘導する取り組みが行われている。日頃の言葉かけも、利用者を尊重した言葉かけになるように、職員同士で注意・アドバイスが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表に出せるように声をかけをし、自己決定できるよう働きかけ、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、利用者の生活のペースや体調を把握しながら、どのよに過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容により散髪をお願いしている。本人や家族の希望で、かかりつけの美容が良いと言う方は、その美容室に行かれている。洋服は持参され、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や意見を聞きながら、楽しみなものになるよう季節感のあるメニュー作りに努めている。食事の準備や片付け、台拭きなどその人のペースに合わせてながら職員と一緒にいる。	「今日は何を食べたい？」と尋ね、利用者の好みの物を作るように心掛けている。職員と利用者が同じ食事を食べる時間は賑やかな楽しい時間となっている。看護師より野菜は大きい方が食べやすいという指導のもと、野菜は大きく切られているなど、よく工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後記録している。栄養バランスにも気を配り、その人の能力や機能に応じ、普通食やきざみ等工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きできる方は誘導や声かけによって磨いて頂いている。義歯の方は夜間は入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、声かけを行い一人ひとりの身体状況に応じた排泄の支援に努めている。	排泄チェック表を参考にしながらの声かけ・誘導支援で、排泄の自立につながった利用者もいる。排泄に必要な筋力をつけるための体操の取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽度の運動や食事で工夫を凝らしたメニュー作りに配慮し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日に4～5人での1日おきの入浴支援を行っているが、その日の利用者の状況や希望により随時入浴できるよう、個々にそった支援を心がけている。	利用者の希望に沿った時間に入浴できる支援が行われている。入浴拒否をされる利用者には、声掛けをしながらの誘導が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズムを尊重し、崩さないように、状況に合わせて休息を取られたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、処方箋を確認し、1人ひとりの内服薬について把握している。服薬後は確実に服薬できたか、また症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、掃除の手伝い、台拭き、食器拭き、洗濯物たたみ、調理、菜園の世話、レクリエーション等を通して、一人ひとりの得意分野で力を発揮して貰えるように感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩したり、近所のホームの行事の参加や全員では季節の桜やコスモスを見に出かけている。また、家族と一緒に外泊・外食されたり、協力しながら出かけられるように支援している。	買い物に行きたいという利用者にはその日のうちに、出かけられる支援が行われている。家族からの突然の外出・外泊希望に対しても支援がされている。地域行事への参加や、花の季節の見学も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はできる利用者は少ない。個別で何か欲しい物や必要な物があれば、家族に持って来て頂いたり、家族と相談して、施設側が立替え、一緒に買い物へ出かけ支援している。県外にご家族がいらっしゃる方は、小遣い程度事務所で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話や手紙のやり取りはいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場はリビング前の畑にゴーヤを植えゴーヤのつるがどんどん伸びグリーンカーテンができて、夏場の暑さを少しでも涼しく感じて頂けるよう工夫をしている。リビング、個室には空調整備も整っており、温度管理には気をつけている。	大きな窓から、庭が間近に見える明るいリビングは、すっきりと収納がされ、動きやすかつ広々とした居心地の良い空間となっている。廊下も光が差し込む作りとなっている。	利用者がより快適に過ごせるように、昨年度の目標達成計画にも掲げられている、どの洗面所からもお湯がでるようにする取り組みを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席ではそれぞれ気の合った方同士になるよう座られ、リビングにはソファを配置し、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や今まで使用していた物を持って来てもらい、なじみのある使い慣れた物を配置することで、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	作り付けのクローゼットは収納力が十分あり、大きな窓がある居室は、広々とした居心地の良い空間となっている。北側の居室は、暗い部屋を希望する利用者を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内全面バリアフリーでトイレなどは場所が分かるように利用者目線の位置に貼紙をしている。廊下、風呂、トイレには手すりが設置してあり、障害物を置かないように心がけている。		